

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	日本文学講読	
科目基礎情報						
科目番号	0308		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	授業者作成テキスト・講義資料					
担当教員	高熊 哲也					
到達目標						
<p>人間や人間社会に関して、健全でバランスの取れた幅広いものの見方を育成する。文化や芸術に関心や興味を持つ。</p> <p>○講義資料に示した語注や語彙・漢字のポイントを手引きとして、テキストのあらすじが理解できる。</p> <p>○作品が現代とは異なる文化や社会を舞台にしていることを理解して作品読解にあたる。</p> <p>○作者の表現の意図や、作品の構成に表れた世界観（幻想性や神秘性）について興味を持って作品を読解する。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
テキストの読解（文語小説の特徴の理解、語彙）	講義資料に示した語注や語彙・漢字のポイントを十分に理解しつつ、文語体のテキストを円滑に読み解くことができる。		講義資料に示した語注や語彙・漢字のポイントを手引きとして、テキストのあらすじを追える。		講義資料に示した語注や語彙・漢字のポイントを参照しても、テキストのあらすじを追えない。	
時代背景の理解	明治初期から中期の社会状況や人々の生活を具体的かつ豊かに想像しつつ作品を読める。		作品が現代とは異なる文化や社会を舞台にしていることを理解できる。		時代状況を視野に入れて作品を読むことができない。	
作品読解上の問題点の理解（鑑賞）	作者の表現の意図や、作品の構成に表れた世界観に主体的に思いをよせ、深く理解できる。		作者の表現の意図や、作品の構成に表れた世界観について理解できる。		展開される物語の世界について、想像力を働かせて捉えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C-1 JABEE 1(2)(a) ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	泉鏡花の作品は、近代以前は自明の存在であったものを、神秘や不思議な存在（幻想）として、その存在を逆説的に示すところにその特徴の一つがある。いくつかを講読し、前近代的から近代へ動く時代の断面を捉える試みとする。あわせて、子供に愛情を注ぐ女性の本源的なあり方に思いを寄せる鏡花の感受性に考察を加え、母性愛に寄せる男性のあり方を成長や自立と重ねて描く手法を理解する。さらに下層民や社会矛盾への視点、ピカレスク小説の魅力などを、地元を舞台とした作品の講読を通して理解する。					
授業の進め方・方法	担当者の単独講義、講読演習					
注意点	テキスト読解の障壁を取り除くために、資料として配付する語釈を丹念に参照し、未知の語彙については綿密に調べる。					
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	「蛇食ひ」講読①		ガイダンス 泉鏡花の人と作品に関する概説。鏡花が富山を舞台とした作品を書いていることを知る。	
		2週	「蛇食ひ」講読②		「蛇食ひ」の講読を通して、鏡花が文学的出発時にどのような社会的な問題意識を持っていたか考察する。	
		3週	「黒百合」講読①		「黒百合」の舞台背景をおさえつつ、浪漫的なピカレスク小説の魅力に触れる。	
		4週	「黒百合」講読②		道場	
		5週	「黒百合」講読③		同上	
		6週	「黒百合」講読④		同上	
		7週	「黒百合」講読⑤		同上	
		8週	中間試験		泉鏡花に関する知識、「蛇食ひ」「黒百合」テキストの理解度、作品の読解上の問題点について	
	2ndQ	9週	「黒百合」講読⑥		「黒百合」の舞台背景をおさえつつ、浪漫的なピカレスク小説の魅力に触れる。	
		10週	「黒百合」講読⑦		同上	
		11週	「黒百合」講読⑧		同上	
		12週	「黒百合」講読④		同上	
		13週	「龍潭譚」講読①		「龍潭譚」の講読を通して、亡母憧憬を軸とした物語構造について考える。同上	
		14週	「龍潭譚」講読②		同上	
		15週	「龍潭譚」講読③		同上	
		16週	期末試験		「蛇食ひ」「黒百合」のテキスト理解度、作品の読解上の問題点について	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	

			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	

評価割合

	試験	レポート	音読評価	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	40	20	10	70
専門的能力	30	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0